

◆セッションI 「コウノトリの未来」

遺伝的多様性の確保には国際協力が不可欠

兵庫県立大学をはじめとしたコウノトリ野生復帰の研究に取り組む国内外の研究者が集まり、今後目標とする個体群の長期的存続に必要な生息環境と遺伝構成について議論を交わしました。また、生息環境の整備とともにコウノトリが地域の自然に及ぼす影響も調査する必要があるなど、最終的な到達点となる「生態系の復元」に向かったの課題提示もありました。

県立コウノトリの郷公園

園長 ^{えざきやすお} 江崎保男さん

コウノトリの繁殖は全国に広がっていますが、生息環境整備はまだ不十分です。そのためには農・林・水産業の復興が大切です。また、遺伝的多様性の確保には国際協力が不可欠です。



^{イェサン} 禮山コウノトリ公園 (韓国)

キム・スギョンさん

韓国では遺伝的劣化が問題になっており、解決策を見つける必要があります。その方法として韓国で放鳥された個体と中国、ロシア、日本からの個体がペアになることを期待しています。



オタゴ大学(ニュージーランド)

教授 フィリップ・セドンさん

鳥類を絶滅から救うプログラムが初めて行われてから100年以上経ちました。今では豊岡の取組みが示すように人間が暮らす環境の中でさえ実現できるようになりました。



◆セッションII 「共生社会を目指して」

自然と対話し、生命系全体を考える

豊岡の取組みや、関東圏で初のコウノトリの繁殖地となった栃木県小山市の取組みなどを話題として、命のつながりについて、さまざまな意見を交わしました。

関貫市長

コウノトリのことを自分事として考えた場合、自分たちが自然や生きものに対して、どんな気持ちでいるかが大切だと思います。

上智大学教授

あん・まくどなるどさん

自然と対話することが大切です。頭でっかちでなく、体験することによって共生の社会づくりにつながるのではないのでしょうか。



青山学院大学教授 ^{ふくおかしんいち} 福岡伸一さん

命はつながっているので、コウノトリのことを考える時、命が連鎖している生命系全体を考える必要があります。それぞれができることをみんなで考えることが利他的であり、共生の社会につながっていくと思います。



◆セッションIII 「私たちの未来」

環境保護と経済発展の両立を目指す

コウノトリの飼育や繁殖が行われている地域(栃木県小山市、千葉県野田市、福井県越前市、島根県雲南市、豊岡市)の次代を担う世代が参加しました。

オンラインでつながった各地域の子どもたちは、それぞれが行っている「知る」「行動する」「伝える」「交流する」取組みを発表し、これからしていきたいことを話し合いました。

それを受けて、高校生から20代の若者たちが「環境保護と経済発展の両立」「少子高齢化と担い手の確保」など、未来のまちについて自分た

ちの感じた“問い”を出し合い、意見を交わしました。その中で豊岡出身の大学生・田中宏武 ^{たなかひろむ}さんは「環境保護と経済の発展を敵対させるのではなく、自然が好きという気持ちで行動できればきれい。だが、それだけでは厳しい。“環境を考えると儲かる”ことを自然の素晴らしさと同じくらい伝えていくことができれば取り組む人も増えるのでは」と提案しました。



※掲載している情報は編集時点(11月15日)のものです。変更になっている場合がありますので、注意してください。

野生復帰の取組みを振り返り、未来を語り合う

第6回コウノトリ未来・国際かいぎ

つながる! ~いのち・地域・こころ~ Keeping in Touch with Life, Community, and Heart

「第6回コウノトリ未来・国際かいぎ」を10月30日、31日の2日間、市民会館で開催しました。570人が来場、350人がオンラインで参加しました。野外のコウノトリは260羽を超え、繁殖地も豊岡から全国に広がっています。その中で人の暮らしとの関係など新たな課題も生まれています。そのため7年ぶりに開催した今回のかいぎでは、これまでの野生復帰の取組みを振り返り、これからの野生復帰の未来を語り合いました。

《問合せ》コウノトリ共生課 ☎21-9017

◆基調講演 「いのちをつなぐ共生社会—ゴリラに学ぶ」

総合地球環境学研究所所長、京都大学名誉教授 やまぎわじゅいち 山極壽一さん

文化と科学が共鳴し合う新たな環境倫理の創出を

森の共生関係を人間が崩したことが、エボラ出血熱感染の主因であり、現在の新型コロナウイルス感染症の蔓延につながっています。コロナ禍で私たちは、移動の自由、集まる自由、対話する自由の制限を受けてきました。コロナ後の社会では、自然の力を融合してきた東洋の知を生かし、文化と科学が共鳴し合う新たな環境倫理を創り出していかなければなりません。

◆講演 「生きものとともにつくるアート」

美術家 あきいのまた AKI INOMATAさん

人間中心ではない生き方を感じてほしい

生きものとの関わりを通して作品を作っています。枝葉の代わりに素材として人の衣服を使いミノを作っていくミノムシから、生きものの個性を感じています。また、人と関わりの深い“犬”と、体の一部を換えてみる(髪の毛と体毛をそれぞれ衣服にして、人は犬毛の服を、犬は人の毛髪の服を着る)アプローチで、二つの異なる生きものが一緒に生きていくことの難しさを感じています。作品を見た人が作品を通して人間中心ではない生き方を感じてくれたり、生きものを違う角度から考えるきっかけになればいいなと思っています。

◆共に生きる社会を作る◆

セッションⅢに参加したコウノトリKIDS+の おおいことは 大井琴華さん(近中豊岡1年生)が、エンディングで兵庫・豊岡宣言を朗読しました。



兵庫・豊岡宣言(抜粋)

コウノトリを再び絶滅の道に追いやることがあってはなりません。それは、私たち自身の暮らしや命を脅かすことになるからです。コウノトリでつながった地域が取組みを続け、こころを一つにし、人やコウノトリをはじめとする多くの命をつなげて「共に生きる社会」を作っていかなければなりません。今、このコウノトリが生きている風景の先に、確かな未来があると信じます。

※掲載している情報は編集時点(11月15日)のものです。変更になっている場合がありますので、注意してください。